

アクセス方法  
 <電車>  
 東京駅  
 上越新幹線「上毛高原駅」(約75分)  
 →タクシー利用→川場村 (約30分)  
 東京駅  
 上越新幹線または、長野新幹線「高崎駅」(約50分)  
 →上越線「沼田駅」(約45分)→川場循環バス→川場村(約30分)  
 上野駅  
 上越線「沼田駅」(約120分)→川場循環バス→川場村(約30分)  
 <車>  
 練馬IC 関越自動車道(約90分)→沼田IC→川場村(約10分)

memo



小さな旅 ホームページ  
<http://nhk.jp/kotabi>

# 小さな旅

～30年 こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 70

秋色のなか  
 ～群馬県 川場村～

2012年10月21日(日)放送



昭和40年代後半、養蚕業の衰退に伴いりんご農家が増え  
 ました。今では84軒がりんごを作り、村の特産品になっ  
 ています。第一人者の宮田光雄さん(75歳)は、まだ村で  
 多くの人が養蚕をしていた昭和29年、17歳の時に苗木  
 を植えました。早くに両親を亡くし祖父母と妹たちを養う  
 ため、当時、せしめた品として高値のついたりんごに将来  
 を託したのです。その後、宮田さんから村の仲間へ苗木が  
 分けられ、現在のりんごの里が築かれました。

## 特産のりんご畑

旅の見どころ 3



弥生時代から稲作が行われてきた川場村では、稲を天日干  
 しにする伝統が今も残っています。“はってがけ”という台に  
 稲をかけることから、地域の言葉で“はってがけ”と呼ば  
 れています。10月に入ると武尊山から吹きつける北風  
 “武尊おろし”が、稲を乾かしてくれます。天日に干して  
 およそ3週間、次第に稲の養分が穂に下がり、甘くて粘り  
 の強いおいしい米ができると言われています。

## 伝統の“はってがけ”

旅の見どころ 2

旅の見どころ 1

## 恵みあふれる川場村

武尊山(ほたかやま)の南麓(なんろく)におよそ3500  
 人が暮らす川場村。豊かな湧き水と、500メートルを超  
 える標高により朝晩の寒暖の差が大きいことで、甘味のある  
 農作物が育ちます。村の80パーセント以上が山林のため  
 田畑は小規模ですが、秋は米やりんごを求めるたくさん  
 の観光客でにぎわいます。りんご狩りができる農園も多く  
 人気です。また、村には湧き水をくめる公園も整備され、  
 名水を求める人が朝から列をなしています。

